

## 事故後の食品安全科学 NEA 国際ワークショップの開催について

平成 28 年 10 月 27 日  
内閣府政策統括官（原子力防災担当）

- ◆ 日程：平成 28 年 11 月 7 日（月）～10 日（木）  
※11 月 7 日（月）：現場視察、11 月 8 日（火）～10 日（木）：ワークショップ
- ◆ 主催：OECD/NEA（経済協力開発機構/原子力機関）  
※OECD/NEA は、加盟国間の協力促進により、安全かつ環境的にも受け入れられる経済的なエネルギー資源としての原子力利用に必要な、科学的・技術的・法的な基盤を維持・発展させることを目的とし 1958 年に欧州原子力機関（European Nuclear Energy Agency）として発足。現在は、日本、アメリカ、ロシア、フランスなど 31ヶ国が加盟。
- ◆ 共催：内閣府
- ◆ 場所：コラッセふくしま（福島県福島市）等
- ◆ 参加者：国内外の専門家を計 30 名程度招待。  
その他、一般来場者を含めて 130 名程度の参加を予定。
- ◆ 取材：11 月 7 日（月）～10 日（木）、カメラ撮り可。  
※ワークショップの取材を希望される方は、11 月 4 日（金）12 時までに、下記 URL から登録フォームにて登録をお願いいたします。現場視察の取材についての詳細は、下記、問合せ窓口にお電話ください。

### ワークショップ終了後、記者会見を実施

日時：11 月 10 日（木）11：30～12：30

場所：コラッセふくしま 4 階（JR 福島駅より徒歩 3 分）



### ■ 問合せ窓口

内閣府政策統括官（原子力防災担当）付

電話：03-3581-0373

登録フォームへの URL：[https://form.cao.go.jp/genshiryoku\\_bousai/opinion-0011.html](https://form.cao.go.jp/genshiryoku_bousai/opinion-0011.html)

（ワークショップ、現場視察などの詳細について）

來住（くるすみ）、山下（やました）、新岡（にいおか）

（プレス登録について）

中筋（なかすじ）、玉川（たまがわ）

# 事故後の食品安全科学 NEA 国際ワークショップ

## ◆ 日程：平成 28 年 11 月 7 日（月）～10 日（木）

11 月 7 日（月）：

現地視察（いわき市、郡山市、二本松市、桑折町）

11 月 8 日（火）～10 日（木）：

ワークショップ（コラッセふくしま（福島県福島市））

## ◆ 主催：OECD／NEA

## ◆ 共催：内閣府

### 1. 背景

2011 年 3 月の福島第一原子力発電所事故後、日本の食品管理に関して国内外から重大な関心が寄せられています。これらの関心は日本国内や近隣諸国での関心を反映しています。あいにく、事故の影響を受けた地域の食品に対する日本の規制や管理に係る枠組みは、世界でよく理解されませんでした。

原子力発電所事故の影響を受けた地域は農耕地帯で、米、野菜、牛肉、柿、桃を含む多くの食品を生産しています。加えて、この地域は日本において重要な漁業地域でもあります。福島産の食品は国内、海外において高品質で知られていますが、事故の影響を受けた地域の人々は、健康や将来の生活を懸念されています。

事故後の影響で、直接的に事故の影響を受けた地域の外に住む多くの人々は、福島産の食品を食べることへの懸念を持っています。福島約 240 キロ南に位置する東京では、概して福島産というだけで、一部のお店がいくつかの食品を置くのを全く止めてしまいました。放射性物質の影響を受けたと推測する食品を輸入することへの懸念を持つ日本の貿易相手の多くにも似たような反応が見られました。

このような懸念は地域、国内、国外の三重の構造において、複雑な問題を引き起こしています。というのも、幅広く国際的に合意されたアプローチがないからです。これは福島第一原子力発電所事故から学ぶ重要な教訓です。そして、国際的な関心を集中する必要性を浮かび上がらせています。

日本では、農林水産物の安全性を確保するために、生産現場における放射性物質の低減対策の実施、国際的な考え方に準拠した基準値の設定、毎年膨大なモニタリング検査が組み合わせて実施され、安全性が確保された食品のみが流通しています。

政府や国際機関は、福島第一原子力発電所事故以来、これらの問題に焦点を当ててきました。このワークショップでは、食品安全基準を立証する科学について、そして食品安全基準を満たす放射性物質レベルを取り扱う科学について、そして、食品安全の保証を求められている地方、国、そして国際的な組織の角度から議論します。

## 2. ワークショップの目的

本ワークショップの目的は以下のとおりです。

- 事故後の食品安全に関する最新の科学的な側面を述べる
  - 食品への放射性核種移行と放射線量モデリング
  - 食品の汚染を低減させる農業マネジメント
  - 測定手法
- 事故後の食品安全に関する、地方、国内、および国際的なマネジメントの状況と残された課題を述べる
- 残された課題に対処するためのアプローチを議論する

## 3. 会議のフォーマット

このワークショップは、一連の招待プレゼンテーション総会として開かれ、また、ワークショップの目的に基づいた議論を含みます。

本会議は、および会議の成果について説明するパブリックミーティングによって構成されています。

## 4. 使用言語

会議での使用言語は英語と日本語が使われ、日英および英日の同時通訳がされます。

## 5. スケジュール

11月7日（現地視察）	
9:00	いわき市出発
9:55	小名浜魚市場（いわき市） 水産物の検査の説明、検査場視察、質疑応答（45分）  （郡山市に移動）
12:15	昼食
13:15	福島県農業総合センター(郡山市) 牛肉の検査の概要説明、検査場視察、質疑応答（45分）  （二本松市に移動）
14:30	J Aふくしま未来 杉田駄子内倉庫(二本松市) 米の検査の概要説明、検査場視察、質疑応答(45分)  （桑折町に移動）
16:10	伊達果実農業協同組合(桑折町) あんぽ柿の検査の概要説明、検査場視察、質疑応答（45分）  （福島市に移動）
17:40	福島市到着

（※）現地視察は、海外からの科学者等を対象に実施

1日目:11月8日(場所:コラッセふくしま4階多目的ホール)	
09:00	開会
09:05	<ul style="list-style-type: none"> <li>NEA</li> </ul>
09:10	<ul style="list-style-type: none"> <li>内閣府</li> <li>来賓あいさつ</li> </ul>
09:25	<p><b>ワークショップの概要と目的</b></p> <p>ワークショップの議長と共同議長はワークショップの意図、内容の概要を提示する。</p> <p>ワークショップ議長: Mike Boyd, CRPPH Chair, US EPA</p> <p>ワークショップ共同議長: 本間俊充, CRPPH Bureau, JAEA</p>
09:40	<p><b>セッション1:福島第一事故後の日本の食品管理状況</b></p> <p>このセッションのペーパーは、事故後、農畜産物と水産の両方において広まっている放射線の状況の概要と食品科学問題に対する日本政府や自治体の考え方の概要について状況を説明する。</p> <p>このセッションの座長と副座長はこのセッションの意図と内容の概要を短く述べる。</p> <p>座長 : Thierry Schneider, CEPN, France</p> <p>副座長 : 塚田祥文 福島大学 環境放射能研究所 副所長・教授</p>
09:45	<p><b>Paper 1-1: 事故に起因する放射性物質の放出と影響を受けた土壌状況</b></p> <p>プレゼンター: 及川 真司 原子力規制委員会原子力規制庁監視情報課 環境放射能対策官</p>
10:15	<p><b>Paper 1-2: 事故に起因する放射性物質の影響を受けた海洋状況</b></p> <p>プレゼンター: 及川 真司 原子力規制委員会原子力規制庁監視情報課 環境放射能対策官</p>
10:45	<b>休憩</b>
11:15	<p><b>Paper 1-3: 食品中の放射性物質の現状と対策について</b></p> <p>プレゼンター: 青木 仁 厚生労働省 医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部 基準審査課 課長補佐</p>
11:35	<p><b>Paper 1-4: 農林水産物の放射性物質低減対策について</b></p> <p>プレゼンター: 農林水産省</p>

	<b>1日目(続き):11月8日(場所:コラッセふくしま4階多目的ホール)</b>
11:55	Paper 1-5: 食品検査(出荷前・流通時)の体制整備状況と結果 プレゼンター:岡部 陽子 福島県農林水産部環境保全農業課 主幹
12:15	Paper 1-6: 福島産品の流通(価格・量)の状況 プレゼンター:小山 良太 福島大学 経済経営学類 教授
12:35	議論:セッションの座長と副座長は、参加者への議論とスピーカーへの質問の司会をする。
13:00	ランチ
14:00	セッション 2:影響を受けた地域からの食品の生産と流通に対する地元のアプローチ  これらのペーパーは県・自治体が取ったアプローチ、生産物取引を確保するために農家・牧場主・漁師がとった地元主導のアプローチの特有の事例を取り上げる。 このセッションの座長と副座長はこのセッションの意図と内容の概要を短く述べる。 このセッションの特別ゲストには、福島県の農業の未来の展望を発表する福島の農業高校の生徒が含まれている。  座長 : Daniel Iracane, OECD/NEA Rob Theelen, Food and Product Safety Authority(NVWR), Netherlands 副座長: 関谷 直也 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 特任准教授
14:05	Paper 2-1: 農業高校の取組みと地域との連携活動 プレゼンター:福島県立相馬農業高等学校
14:35	Paper 2-2: 福島県の稲作農業の実践的側面 プレゼンター:伊藤 俊彦 株式会社ジェイラップ 代表取締役
14:55	Paper 2-3: 福島県の柿農家の実践的側面

	プレゼンター:数又 清市 ふくしま未来農業協同組合 常務理事
15:15	Paper 2-4: 福島県の漁業の実践的側面 プレゼンター:八多 宣幸 福島県漁業協同組合連合会 災害復興 プロジェクトチームリーダー
15:35	休憩
16:05	Paper 2-5: 福島県の牧場の実践的側面 プレゼンター:湯浅 治 JA グループ福島肉牛振興協議会 会長
16:25	Paper 2-6: 福島県からの食品の取引管理 プレゼンター:野中 俊吉 生活協同組合コープふくしま 専務理事
16:45	Paper 2-7: 福島県からの食品に対する消費者の見解 プレゼンター:佐藤 智重 エフコープ生活協同組合 常任理事
17:05	議論: セッションの座長と副座長は、参加者への議論とスピーカーへの 質問の司会をする。
18:00	1日目終了

2日目:11月9日(場所:コラッセふくしま4階多目的ホール)	
9:00	<p><b>セッション3: 事故後の最新の食品安全科学</b>  このセッションは食品安全に関する最新の科学について提示する。  このセッションの座長と副座長はこのセッションの意図と内容の概要を短く述べる。</p> <p>座長 : Anne Nisbet, Public Health England, UK  副座長: 甲斐 倫明 大分県立看護科学大学 看護学部 人間科学講座  環境保健学研究室 教授</p>
9:05	<p><b>Paper 3-1: 食品規格: 放射物質の影響を受けた農耕地からの食品輸入基準</b>  プレゼンター: Rob Theelen, Food and Product Safety Authority (NVWA), Netherlands</p>
9:25	<p><b>Paper 3-2: 被ばく状況の食糧・飲料水へ現国際基準を適用する上での課題</b>  プレゼンター: Igor Gusev, IAEA</p>
9:45	<p><b>Paper 3-3: 事故後の放射性物質の影響を受けた食品管理のための NEA のフレームワーク</b>  プレゼンター: Ted Lazo, OECD/NEA</p>
10:05	<p><b>Paper 3-4: 放射性物質の影響を受けた食品からの内部線量の最新モデリングと測定</b>  プレゼンター: Dietmar Noßke, Member of ICRP Committee 2</p>
10:25	<b>休憩</b>
10:45	<p><b>Paper 3-5: 放射線物質の影響を受けた土地の植生管理: 科学・技術・背景</b>  プレゼンター: Hildegard Vandenhove, SCK-CEN, Belgium</p>
11:05	<p><b>Paper 3-6: 海産物の放射性核種の測定における良好事例</b>  プレゼンター: Kins Leonard, Centre for Environment Fisheries &amp; Aquaculture Science (CEFAS), UK</p>

	<b>2日目(続き):11月9日(場所:コラッセふくしま4階多目的ホール)</b>
11:25	<p><b>Paper 3-7: 被ばくした農耕地で生産された食品のマーケティングに対する最新の施策と評価</b></p> <p>プレゼンター: Christopher Perks, University of Cumbria, UK</p>
11:45	<p>議論: セッションの座長と副座長は、参加者への議論とスピーカーへの質問の司会をする。</p>
12:15	ランチ
13:15	<p><b>セッション4:事故後の食品安全に対する国の規制と管理アプローチの例</b></p> <p>このセッションはチェルノブイリ事故の影響を受けた国々、または関係国際機関で進捗した食糧生産と取引の管理に対する規制ガイダンスと現在の事例を述べる。 このセッションの座長と副座長はこのセッションの意図と内容の概要を短く述べる。</p> <p>座長 : Dietmar Nosske, Member of ICRP Committee 2, Germany 副座長: 甲斐 倫明 大分県立看護科学大学 看護学部 人間科学講座 環境保健学研究室 教授</p>
13:20	<p><b>Paper 4-1: イギリスのヒツジの管理に対する規制と実践的アプローチ</b></p> <p>プレゼンター: Anne Nisbet, Public Health England (PHE), UK</p>
13:40	<p><b>Paper 4-2: ノルウェーイのトナカイの管理に対する規制と実践的アプローチ</b></p> <p>プレゼンター: Astrid Liland, Norwegian Radiation Protection Authority (NRPA), Norway</p>
14:00	<p><b>Paper 4-3: ベラルーシの食品管理の規制と実践的アプローチ</b></p> <p>プレゼンター: Andrei Mostovenko, Research Institute of Radiology (RIR), Belarus</p>
14:30	休憩
15:00	<b>Paper 4-4: 米等の放射線吸収の仕組みと対策</b>

	<p>プレゼンター:荒井 義光 福島県農業総合センター 生産環境部環境・作物栄養科 科長</p>
15:20	<p>Paper 4-5: 果樹の放射線吸収の仕組みと対策</p> <p>プレゼンター:佐藤 守 福島県農業総合センター果樹研究所栽培科専門員</p>
15:40	<p>Paper 4-6: 家畜の放射線吸収の仕組みと対策</p> <p>プレゼンター:國分 洋一 福島県農業総合センター畜産研究所 副所長</p>
16:00	<p>Paper 4-7: 福島県における海産物生産研究</p> <p>プレゼンター:根本 芳春 福島県水産試験場漁場環境部 部長</p>
16:20	<p>議論: セッションの座長と副座長は、参加者への議論とスピーカーへの質問の司会をする。</p>
17:30	<p>2日目終了</p>

3日目:11月10日(場所:コラッセふくしま4階多目的ホール)	
09:30	<p><b>セッション5: ワークショップサマリー</b></p> <p>このワークショップ最終セッションは各セッションの要点を述べる。これは福島県の住民に結果を示すパブリックミーティングのための情報となる。</p> <p>このセッションの座長と副座長はこのセッションの意図と内容の概要を短く述べる。</p> <p>座長: Mike Boyd CRPPH Chair, US EPA 副座長: 本間俊充 CRPPH Bureau, JAEA</p>
09:35	<p><b>Presentation 5-1: セッション1のサマリー: 福島第一事故後の食品管理状況</b></p> <p>プレゼンター: Jean Francois Lecomte, IRSN, France</p>
09:50	<p><b>Presentation 5-2: セッション2のサマリー: 影響を受けた地域からの食品の生産と流通に対する地元のアプローチ</b></p> <p>プレゼンター: Christopher Perks, University of Cumbria, UK</p>
10:05	<p><b>Presentation 5-3: セッション3のサマリー: 事故後の最新の食品安全科学</b></p> <p>プレゼンター: Ted Lazo, OECD/NEA,</p>
10:20	<p><b>Presentation 5-4: セッション4のサマリー: 事故後の食品安全に対する国の規制と管理アプローチの例</b></p> <p>プレゼンター: Astrid Liland, NRPA, Norway</p>
10:35	<p>議論: セッションの座長と共同議長は、参加者への議論とスピーカーへの質問の司会をする。</p>
11:00	閉会

## 記者会見

**(11月10日 11:30～12:30、コラッセふくしま 401 会議室)**

ワークショップ参加者の一団はミーティングに参加したプレスからの質問に応える会見を行います。

## 福島のパブリックミーティング

**(11月10日 13:30～15:00、コラッセふくしま 401 会議室)**

ワークショップの結果を周知するためのパブリックミーティングを行います。ワークショップの結果についての説明と質疑応答を含み、関心を持つ一般の方に対してオープン形式で行います。